

EM生ごみで土づくり

基本となる土はホームセンターなどで販売されている培養土ではだめです。ホームセンターで買うなら黒土。しかし黒土でも最低で3ヶ月、袋のままでもいいので、できれば半年は寝かせてください。その土に、EMで発酵させた生ごみを入れれば土そのものを肥料化できます。追肥としても使えます。発泡スチロールを使えば真冬でもできます。



EMで桜の葉の腐葉土づくり

腐葉土づくりは桜の葉に限ります。桜はどこにでもあるので、誰でも手に入れますし、微量ですが糖分（ブドウ糖）を含んでいるので、発酵が進むととてもいい匂いがします。腐葉土づくりは秋に落ち葉を拾い集めて、11月に仕込んで7ヶ月目位に完成。



発酵途中の様子

さらに、生ごみを土を作らなければ、生ごみは還元できないと考え、そこからまた試行錯誤が始まりました。発泡スチロールで土づくりをすると、真っ白のカビがでてきました。生ごみの形を消し分解を進めるには切り返すが必要でした。そうすると、冬場は湯気が上がる程度の熱が出て、38度以下の調度よい温度で発酵し、いい土ができました。

1996年にEM花の会を立ち上げて、生協での生ごみの教室や、地区センターで普及をはじめました。最初は12人でスタートでしたが、もっと広めたいと思い、ブースを春、秋と借りて

展示会も行いました。その活動はタウン誌や朝日新聞にも掲載され、生徒は増えていき、一時は、400人以上に増えた時もありました。横浜市緑区の生涯学習での講師なども務めました。平成14年からは大船のEM販売店で教室を開催しています。



山本さんのご自宅は年中綺麗なお花に囲まれています。EMを始めて3年目頃より、花が元気で、色も鮮やかと噂が広まり、地域の方のお散歩コースとなりました。平成18年度環境省と国土交通省が提唱する「第16回全国花のまちづくりコンクール」で個人の部の最優秀賞(国土交通大臣賞)に選ばれました。今も、ご年配の方から、小さなお子さん達まで、見に来られます。

く、手間をかけずに成功すればいいと、忙し中でやってくれる人達の為にも努力していこうと考えているそうです。「EMは裏切ることなく、信頼すれば成功します。微生物はこちらがきちっと見据えて手を差し伸べたら確実に

に伝えてくれる存在です。比嘉教授が話しているようにEMは数学でも化学でもなく、それ以上。1000倍以上もの結果をだしてくれるのがEMだと思っています」と熱心にお話してくださいました。



神奈川県横浜市長 山本美千代さん

自宅の横がゴミ置き場でした。パプリ期でゴミがどんどん増えていくのがリビングから見えました。こんなのでいいのかしら、地球がパンクするのではと思いました。

ある日、新聞の1ページに見つけた「EMを使って、生ごみの資源化をしよう」と訴える広告。女性がビニールの袋に生ごみを入れて持つ写真

と、「EMボカシを入れれば、生ごみが消えます」という言葉が載った環境リサイクルの広告でした。私が考えていたことが現実となって、私の目に飛び込んできました。EMという言葉との初めての出会いでした。EMとの出会いは私にとって、新しい人生のスタートでした。

山本さんのオリジナル長期熟成EMボカシ

配合は米ヌカ1袋(15kg)、油カス5kg(なたねのみ)、骨粉(パウダー)1.5kg、魚粉1.5kg。EM1と糖蜜で3~4日発酵させます。温度が38℃以上にならないようにして、40日間発酵させます。ポイントは愛情をかけること。微生物は生きているからです。



家の周囲には、花の苗が植えられたプランターが所狭しと置かれています。

生ごみ発酵肥料のきれいなお花づくりが地球のためにできること